

平成30年度 三刀屋高等学校 学校評価（年間評価と今後の改善策）

4段階評価 A:十分に達成できている状況 B:概ね達成できている状況  
C:どちらかといえば達成できていない状況 D:ほとんど達成できていない状況

今年度重点目標		自己評価			学校関係者評価		
		H30 肯定的回答の平均(%)	※H29 肯定的回答の平均(%)	評価		概要と今後の改善策	評価
1 確かな学力と地域貢献意識を持った生徒を育成する	<p>○確かな学力 基礎学力が定着した生徒 高度な課題研究に取り組める応用力を持った生徒</p>	81.7	82.4	B	<p>(授業の改善・工夫) 教育課程実践モデル事業の実施およびICT機器の整備により、良い評価が得られた。全クラスにICT機器が設置されたので、今後も生徒にとってより効果的で主体的な学習への取り組みになるよう工夫していきたい。課題であった家庭学習の充実については3年生は向上し、2年生は昨年と同じ、1年生が下がった。日々の授業で予習・復習をするための手立てを指示したり、課題テストを定期的実施したり、毎日の学習時間記録を記入させたりしているが、家庭学習の充実に関わり合っていない。教科会や学年会等で話し合い具体策を講じて、高い進路意識を持たせ学習への高いモチベーションを保持させたい。</p> <p>(キャリア教育) 今年度からルーブリックに基づきより探究的なプログラム(未来創造探究)に改編・実施した。教員による評価は昨年度より改善したが、生徒・保護者による評価は昨年度よりも下がった。来年度は生徒がClassi(クラッシー)を活用し、生徒も評価基準を用いて振り返るための機会を設ける。自らの将来について考えるきっかけづくりについては大学生や社会人と交流する機会を設けたり、LHRなどで計画的に実施したりしたい。</p> <p>(進路指導) 1・2年生において模擬試験や土曜補習の取り組みについて評価が低かった。保護者の評価は1年生が昨年度より下がっている。これは新大学入試等に関する情報の提供・共有の不足が理由として考えられる。来年度は、未来創造探究(キャリア教育)と調整して、生徒の進路学習の時間を確保したり、教員が進路説明会や情報交換会、企業・学校訪問等で情報収集・共有したりする。また、便りや外部資料等で進路情報を提供し、面談、保護者ガイダンス、上級学校説明会等の機会に進路選択について理解を深めてもらうように努力する。「合格体験記」は、来年度の早い時期に発行するように計画する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の家庭学習時間が昨年度に比べ少なくなったことは課題である。</li> <li>・定期試験前の遅進者のための個別学習指導はよいことだ。指導の効果も上がっている。</li> <li>・生徒に身につけさせたい力が非常に明確になっていて驚いた。学校側の説明のとおり来年度は生徒に明示し学習の目標を具体的にイメージさせて欲しい。</li> <li>・メディアの影響なのか生徒の読書時間が少なすぎる。教科に関心が湧くと生徒は勉強する。教員が知識・技能だけでなく自らの担当教科の学習の楽しさや面白さを1年生のうちに伝えて欲しい。</li> <li>・新聞記事によると、雲南市は幸福度の大きい市・帰ってきたい市である。三高は地元のよさが分かる学校である。</li> <li>・総合学科設置当時から見ると、キャリア教育がかなり充実してきた。個別に生徒と関わった中でキャリア教育の成果は出ていると感じた。継続して欲しい。</li> <li>・保護者の中に、「三高は就職に弱い。教員の就職指導が不十分である」との声がある。総合学科で幅広い志望をもった生徒が入学する高校であるので、就職希望者にもっと寄り添って欲しい。また、就職指導にも教育魅力化コーディネーターを活用できないものか。</li> <li>・新大学入試制度の内容については、生徒や保護者に丁寧に説明してあげて欲しい。</li> </ul>
	<p>○地域貢献意識 地域の課題を認識し、創造的に課題解決に取り組むことができる生徒</p>						
	<p>○キャリア創造力 自己を理解し、その強みを生かして、自己実現をめざし続ける生徒</p>						
2 社会に通じる人間力を持った生徒を育成する	<p>○自己管理能力 あいさつ、掃除、整理整頓が自らでき、時間を遵守できる生徒</p>	87.0	88.0	A	<p>(教育相談・特別支援教育) 生徒・保護者が悩みを相談する機会の設定、周知に対する評価が昨年同様低く、特に1年生では顕著である。保護者に対するスクールカウンセラー(以下「SC」)など校内の生徒支援体制の周知や必要に応じて専門機関との連携を取って協力を仰ぐことや照会をすることへの理解が不十分である。来年度はSCの来校スケジュールや生徒支援校内体制について保護者にSCスケジュール表の配布、PTA総会での周知、保健便り、学校のHPへの掲載で徹底を図りたい。</p> <p>(いじめの防止) 早期問題解決についての生徒、保護者の評価が昨年より約11%下がった。今年度よりいじめアンケート調査5回のうち2回を無記名で行ったが、無記名での調査は追跡が難しいため対応しにくいので評価が下がったのではないと思われる。来年度は、できるだけ早期に発見し、担任や部活動顧問から学年会や生徒指導部への連携を速やかに行い、いじめ対策委員会を開き組織的に早期対応に努める。いじめアンケート調査については無記名では追跡調査が難しいため5回とも記名で行う。</p> <p>(自動車運転免許の取得) 自動車学校入校について、本校の進学決定者の入校条件が厳しいとの意見が全学年の保護者から寄せられた。進学決定者の自動車学校入校条件については他校の状況や県全体の傾向などを踏まえて来年度検討したい。</p> <p>(人権の保証) 教員の不適切な言動に対してきびしい指摘がある。生徒の生命や人権を守ることが最重要であることを深く考え、個々の教員が人権を尊重した対応をするため、今後教職員研修の機会を増やす。また、生徒に対しては学級での指導・支援の内容・方法を充実したり、携帯電話のメールやSNSなどの利用については外部の専門家の協力を得ながら適切な利用について指導したりしたい。</p> <p>(環境・ボランティア活動) 2年間にわたる長寿命化工事が終了し校舎が整備された。今後は生徒保健委員会が呼びかけるなどして整った環境を整備・維持したい。ボランティア活動については、今年度は校内での認知症サポーター養成講座に参加したり、校外の福祉施設や保育園で参加したりして次第に活発になりつつある。今後も、さらに生徒に参加を勧めたり活動状況を発信したりしていきたい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に見て学校評価アンケートの1年生保護者の記述意見で厳しい内容のものがあるが、学校がこの評価結果を学校評議員や学校関係者評価委員にも示し率直に受け止めようとする姿勢は評価できる。</li> <li>・いじめや虐待の防止について、保護者、教員、SCが連携し生徒の声に耳を傾け、大人が何がいじめになるのか、いじめが何につながるのか、生徒の心の奥底にあるものは何かを聞く耳を持ちたい。</li> <li>・昨年度に比べ数値が大きく下がった進路指導や保健指導などの質問項目について十分に分析・検討してもらいたい。</li> <li>・自動車免許は、就職者や車通学が必要な専門学校への進学者は許可できるが、他の上級学校への進学者は大学等に入学後1年生で取ればよい。免許取得規程の緩和もあるが、免許取得後の事故が心配。保護者の責任範囲を明確にし本人とも約束する必要がある。規程の改訂は慎重に検討して欲しい。</li> <li>・学習指導に関しての三高トライアングル(注:授業の改善と課題研究の充実と家庭学習の充実の相補的關係)だが、子どもを将来の「市民」に育てる教育も、保護者・教職員・地域とのトライアングル(共通理解や協力関係)が大切だ。学校から保護者と一緒に学力向上や他の教育を進めていく雰囲気作りをしてもらって、信頼関係作りをしてもらいたい。</li> </ul>
	<p>○コミュニケーション能力 他者を思いやり、正しく自己主張ができる生徒</p>						
	<p>○実践力 ボランティア精神に富み、積極的・主体的に行動できる生徒</p>						
重点目標以外で評価を求めたい項目		86.7	87.6	A	<p>(情報発信) 学校だよりやHPを充実させたが、保護者による評価は下がった。来年度は、部活動大会結果をホームページに速やかに掲載したり、学校だよりが確実に保護者に渡るように呼びかけを徹底したりしたい。また、臨時休校等の緊急メールは迅速に送信し、下校時刻を早めた際は時刻も伝えるようにしたい。</p>	A	(評価意見なし)